

(株)新農林社
岸田義典
代表取締役社長

(口頭報告のみ)

➤ 耕うん、刈取、精米の現場等訪問

- 耕うんと刈取は、サービスプロバイダ
- 精米は、精米所2カ所(小規模実証中と中規模事業者)

➤ 機械化の課題(プロバイダ)

- サービスプロバイダの育成(質と数)のために...
- 消耗品や修理部品の迅速な供給と修理体制の構築
- プロバイダのオペレータ、修理技術者の教育
- 日系農機の実使用による効果を浸透させていくこと

➤ 機械化の課題(精米所)

- 停電による稼働ロス、生粃の安定的な調達

➤ 熱意あるAFICAT委員会の活動に期待

- 機械化は進展しつつある
- 農業以外の様々な課題(金融、関税、電力など)も

AFICATコートジボワール現地調査を終えて

(一社) 日本農業機械化協会 藤盛隆志

○稲作機械化の状況

調査地域（ヤムスクロ近郊サカスー地区）の水田圃場では、耕うん機、普通型コンバイン（ともに日本ブランド）、精米所では中国製精米機がそれぞれ稼働。他の工程は、植付＝手植、乾燥＝天日乾燥とのこと。

⇒ 各作業をサービスプロバイダが担い機械化は進展途上。バリューチェーンを成立させ、品質アップ・歩留増による収益向上のためには、直播と機械乾燥の実証・普及がカギ。今後のAFICATの活動に期待。

⇒ 当該地区は約60haの灌漑区で、水利条件は比較的恵まれているものの、狭隘な圃場区画、排水不良、未整備な農道などのインフラの諸課題を併せて解決させる必要。

○農業機械（特にコンバイン）のアフターサービス（修理整備体制、スペアパーツへのアクセス）の問題

新車導入後1000時間程度で、機械のあちこちに問題が発生し、故障そして作業が頻繁に停止する現状。

交換頻度が高いスペアパーツを特定しその確保、さらに迅速な供給が肝要。また、故障を未然に防ぐための機械の修理整備知識の付与も重要。スペアパーツの関税の問題は別途両国ハイレベルの交渉が必要。

○農業機械化政策の確立と充実の必要性

策定中の新しい農業機械化戦略の内容と今後の実践状況をウォッチし、必要に応じコメントを。

1. 農機サービスプロバイダー(PMEA)を通じた農業機械化の 妥当性と運行能力の向上を確認

コンバインを年間700～800時間の使用事例あり
代理店等も含む民間関係者支援を継続



2. AFICAT委員会を核とした実施体制

主体的活動と日本側への期待の高さあり
機械化戦略改定への支援に加え、研究機関や加工業者協会などとも具体的な連携活動実施へ



3. 海外の企業によるビジネス環境改善への関与

機械や部品の通関手続き・保税倉庫、契約手続きなど
日本大使館、JETROとも更に連携をしていく

AFICAT有識者コートジボワール現地視察に参加して

2025年8月5日 (株)農経新報社編集局・羽田美里

①農経しんぼうとは

1953年創刊の農林業ビジネス及び農林業機械の専門紙です。



ホームページ

2023年に創刊70周年を迎えた小紙は、日本の農業機械化の進展と普及を追い続け、発行部数は3500部を超えました。海外事業にも力を入れ、毎年「農経しんぼう欧州農機事情視察団」を企画。第77次を迎えた昨年はイタリアEIMAをはじめ欧州の農機販売店、工場、農場など視察し、好評を博しております。



②視察の目的など

コートジボワールの農業・農業機械化の現状取材し発信することで、日本の多くの農業関連企業にアフリカ展開に興味を持ってもらう。

AFICATの取り組みとともに、今回取材したコートジボワールの農業・農業機械化について現状と課題をわかりやすく伝えることで、組織規模に関係なく、より多くの日本の農業関連企業・団体にアフリカ進出に興味を持ってもらい、その出口策の一端まで示すことができると考えています。

<具体的な記事掲載予定>

- ・農経しんぼう2025年8月11日号・第1面を用いて視察第1報を掲載
- ・その後不定期になるものの、8月18日号(予定)から連載で詳細記事を掲載

③視察の一言感想

ポテンシャルは膨大！
ニーズも意欲も非常に大きい。
ただし課題も山積。
ぜひ「チーム日本」で突破口を！

圧倒的に農業機械が足りておらず多くを手作業で実施。
米の需要は非常に高く、当局も増産に力、今は輸入に頼っている。
日本の農業機械の進出においては地域の実態とのマッチング、部品供給、中国製との競争など課題山積。
「チーム日本」で課題を乗り越えられないか？
詳しくは記事で！ご清聴ありがとうございました。

現地ガソリンスタンドで輸入米が売られている様子→



農村ニュース 吉井

コートジボワール視察について



取材して感じた点



- ▶ 給与が低いことにより若い人が農業をやりたがらず、ドライバーなどに転職してしまう（日本と同じく人手不足）
- ▶ 販売店や政府関係者が部品供給の問題について
部品供給について販売店・サービスプロバイダ・メーカーとの間で認識に差がある点
またメーカー側に対して政府や販売店が今よりも安く部品供給するように要求するなど少し他力本願な点も見られた